

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

～安全委員会開設9周年記念号～

羊ヶ丘養護園 VOL. 39
 令和7年1月28日
 発行：臼谷・奥泉・内山・藤田

『羊ヶ丘養護園安全委員会九周年記念集会に参加して』
 ～One for All, All for One.から思う～
 羊ヶ丘養護園安全委員会の九周年を心よりお慶び申し上げます。
 十年目への一歩を踏み出す素晴らしい時間を、皆さまや卒園生の方々、顧問の田島先生と一緒にご過ごされたことを、とても幸せに思います。
 当日、「One for All, All for One」という言葉のルーツは、ヨーロッパの宗教戦争にさかのぼるそうです。自分の考えや気持ち、言葉を抑え込まれようとしていた人たちが戦った時代に、皆がまとまることの大切さを表現した言葉でした。
 安全委員会のスローガンが、暴力の最たるものの一つである戦争で生まれた言葉と思うと、複雑に感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、最初はそのような生まれ残り、現在広く知られるようになった、という事実が大事であるように私は思います。安全委員会では、暴力を見逃さないように努め、時に「厳重注意」をはじめとした厳しい対応も行います。暴力があった事実をなかつたことにせず、二度と暴力をしない・させないため、気持ちを言葉にして共に伝えていこうとする強い思いがそこにはあります。だからこそ、これだけの時間を積み重ねることができたのだと思います。
 皆のためだけに一人がいる（One for All）のでも、一人だけのために皆がいる（All for One）のでもありません。一人一人が自分自身と皆のため、皆で暴力のない羊ヶ丘養護園の歴史を創っていきけるよう（One for All, All for One）、これからも安全委員会のある生活を大切にしていきましょう。十年目もどうぞよろしくお願いたします。

羊ヶ丘養護園安全委員会委員長 澤 聡一



～9周年記念集会の様子～



令和元年11月25日に安全委員会9周年記念集会を行いました。今年のテーマは『One for All, All for One. ～ひとりみんなの為に、みんなはひとりの為に～』に決まり、子どもたちは、田島先生や澤先生を始め、委員の先生より応援の言葉を頂いていました。また、児童と職員16名の意見表明に真剣に耳を傾け、『暴力をしない・させない羊ヶ丘』のスローガンを改めて心に刻み、新たな1年を迎えるぞという表情が伺えました。



先日、日本で行われたラグビーワールドカップで、日本代表がベスト8という成績を残しました。代表チームは『ONE TEAM』というスローガンを掲げてチームひとつになって優勝を目指しており、その様子に子どもも職員もとても感銘を受けました。今年度、羊ヶ丘養護園に安全委員会を導入して9年目という事で、改めて子どもも職員も目標を掲げてチームひとつになって安心安全な生活を送ろうという意味を込めてフラッグに目標を書き、まとめたものをポスターにしました。



羊ヶ丘養護園安全委員会に参加して

札幌市立東月寒中学校 校長 工藤伸哉

四月に東月寒中学校に着任し、安全委員会に参加して養護園や関係者の皆様、そして子どもたちとお会いする機会をいただくようになり、養護園の安全委員会は、施設で生活する子ども達の安心と安全を守り、施設内暴力を排除していく役割があり、今年でこの仕組を取り入れ九周年を迎える養護園の様子を見ていても、子ども達の健全な成長に大きく寄与していると感じています。

前任校にも校区に児童養護施設があり、施設の行事に参加したり、学校での子ども達の生活の様子を伝える機会もありましたが、これほどつまびらかに施設内の子ども達の生活の様子、しかも暴力などの報告を伺う機会はありませんでした。驚きではありましたが、いざ本校で学ぶことになる子ども達たちの養護園での生活の様子を聞くこと、また、問題を起こした子ども達に直接話をする事が出来る機会を得ることは、本校としてもたいへん有意義なことです。

安全委員会の厳重注意に呼ばれる子どもたちは、友達との関係で問題が起こったときに自分の感情を上手に言葉に出来ず、その気持ちを暴言・暴力でしかあらわすことのできない幼さがあると思います。私もこの子ども達に常に愛情をもって接し、人間関係を良好に保てるよう話をして、今後の健全な成長の一助になれば幸いです。

さらに、養護園全体も楽しく暴力のない安心・安全な生活ができるよう、子どもたち、そして養護園の皆様のために、微力ながらお手伝いさせていただきます。今後どうぞよろしくお願いたします。

『羊ヶ丘養護園安全委員会九周年を迎え』

～今立ち止まり安全委員会の取り組みを考える～

羊ヶ丘養護園 施設長 大畑 和子

平成から令和に元号が変わり、羊ヶ丘の安全委員会も十年目を迎えることになりました。この十年間、施設の生活が子どもたちにとって安心で安全であること、子どもたちが希望を持ち目標に向かうことができることを願い安全委員会の取り組みを行ってきました。

また、子どもたちの生活環境も大舎制から小規模ユニット化に移行し四年、職員も増え、安全委員会を立ち上げた時に生活していた子どもたちの多くが園を巣立ちました。人や環境が大きく変わったことで、ユニット内の生活が見えない不安や職員がユニットで子ども達の課題を抱え込んでしまうストレス、リアルタイムに暴力の解決の対応ができないこと、安全委員会の活動自体職員間で共有できなくなるなどの新たな壁を乗り越えなければならぬという課題に直面し、私自身戸惑いと不安、葛藤する日々を過ごす時期が多かつたように思います。しかし、その課題の解決のために、今年度は、安全委員会導入時の原点にもどり立ち止まり今後の取り組みについて職員間で考える機会を多く持つために、田島先生と菅先生のお力を頂き園内研修を行い自分たちが果たす役割に責任を持つことや安全委員会活動について再確認することができました。また、暴力問題だけではなく、家庭的養護中間評価を行うために実行委員会を立ち上げ、アンケート調査やヒアリング、グループディスカッションを通して、多くの課題を整理し「子どもたちを大切に育て、護る」ことについて考える機会となり、多くの皆様に力を貸していただいた一年となりました。

今回の九周年記念集会では、卒園生が在園児童にメッセージをくれました。卒園しても羊ヶ丘養護園のために力を貸してくれる卒園生に嬉しさと感謝の気持ちでいっぱい、大人になった子どもたちから元気をもらいました。羊ヶ丘に安全委員会があつたからこそ経験できた瞬間でした。

田島先生、菅先生からは、壁にぶつかったときに、応援して頂き前に進むことができる力を頂いています。外部委員の皆様、子どもたちの成長を支えて頂きありがとうございます。菅先生、菅先生の論文の中に「この世の中に生を受けた子ども一人ひとりが護られてきてよかった」と感じる事ができると、大人として知恵を分かち合い、力を合わせて着実に一歩を進めていきたいものです。という一文があります。これからも、たくさんの方々の励ましを元氣と勇氣に代えて、子どもたちの健全な成長を願いみんなで力を合わせて知恵を出し合いがばります。